

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	京都大学	申請大学長名	松本 紘
申請類型	複合領域型（情報）	プログラム責任者名	淡路 敏之
整理番号	K02	プログラムコーディネーター名	石田 亨
プログラム名	デザイン学大学院連携プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムでは、「デザイン学」を共通言語とする専門領域横断的な教育プログラムを編成し、協働を担い得る博士人材の育成を行う。即ち、様々な場面でイノベーションを主導し、社会を変革できる専門家の育成を目標とする。このような人材を、ジェネラリストを意味する「T字型人材 (T shaped people)」と対比させ、専門領域を超えて協働し社会を変革できる突出した専門家という意味を込めて「十字型人材 (+shaped people)」と呼び、本プログラムが養成すべき人材像とする。本プログラムでは、Cyber（情報学など）とPhysical（工学など）の専門家が、経営学、心理学や芸術系の専門家との協働を通じてデザインが行えるよう、総合大学の特長を生かして、4つの研究科／専門職大学院（11専攻）が連携している。さらに、国内外のデザイン学を指向する大学院やそうした教育を求める産業界と連携し、6年の期間を通じて、国際標準と成り得るデザイン学博士課程を確立する。

2. プログラムの進捗状況

25年度は4月に第一次選抜を行い27名の履修者（予科）がプログラムに入学し教育活動を開始した。10月には第二次選抜を行い13名の履修者（本科）が本プログラムに在籍している。新規開講のデザイン学共通科目など11科目に加え、本プログラムの特長である問題発見型・解決型学習（FBL/PBL）11テーマを実施するなど、領域横断的に実践力を高める取り組みを始めた。並行して人事を進め、本プログラムを実施するために必要な優秀な特定教員を確保した。

産学連携活動としては、産業集積地である京都市サテライトパークにデザインイノベーション拠点を整備し、約40社が参加するデザインイノベーションコンソーシアムを設立した。国際連携活動としては、欧米の大学・研究機関との連携を進めている。大学間連携活動としては、京都市立芸術大学、京都工芸繊維大学と共にサマーデザインスクール（25テーマに約200名が参加）を実施した。社会に公開された活動としては、デザイン学に関わる多くのシンポジウムやワークショップを開催した。その他、QE後の科目であるオープンイノベーション実習、フィールドインターンシップの準備を進め、26年度からの新たな教育活動に備えた。